

信秋タイムズ

第5号

新潟

安全で美しいふる里をつくろう

発行：自由民主党東京都参議院比例区第五十五支部
〒102-0072 千代田区飯田橋1-4-2 九段ウイスタビル2F

何時も変わらない皆様のご支援、ご指導心から感謝申し上げます。

平成21年8月30日に行なわれた総選挙の結果は、残念ながら、自・公の大惨敗でした。皆様のご支援に対し、心から感謝致しますとともに、お詫び申し上げます。敗因はいろいろ指摘されていますが、とにかく前を向いて、自民党の建て直しと、日本の再生目指して まっしぐらに進まなければなりません。政権与党の案に対して明確な対案をまとめて、野党として一丸となって国民に信を問わなければなりません。

そんな事を考えながら、平成21年10月17・18日、TOKYO MXテレビで、西部邁先生、秋山祐徳太子先生と30分、対談させて頂きました。（録画は TOKYO MXテレビ 西部邁ゼミナール ホームページ <http://www.mxtv.co.jp/nishibe/> 及び 佐藤のぶあきホームページ <http://www.sato-nobuaki.jp/> からアクセスできます。）西部先生のご主張には、成程と肯くばかりで、是非皆様にご紹介したく、先生のご了解を頂いて概要報告致します。当日、佐藤信秋が使用したデータ等を次号にまとめて掲載致します。

1 西部邁ゼミナール 「戦後タブーをけっとばせ」

(概要、文責は編集部)

テーマ〔国土建設は国家安定の礎石〕



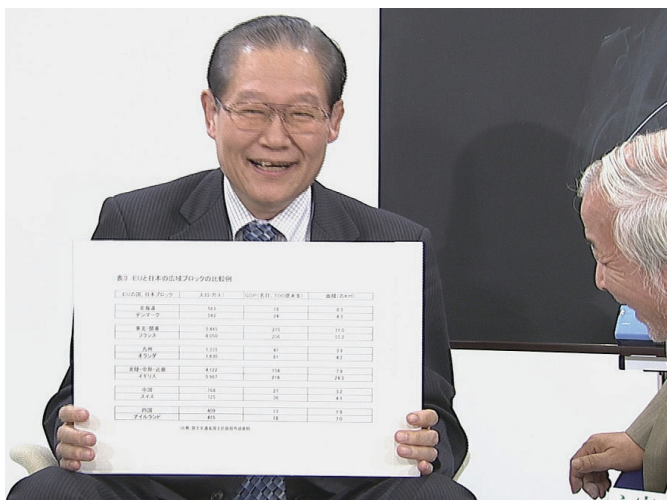
西部邁先生の論点

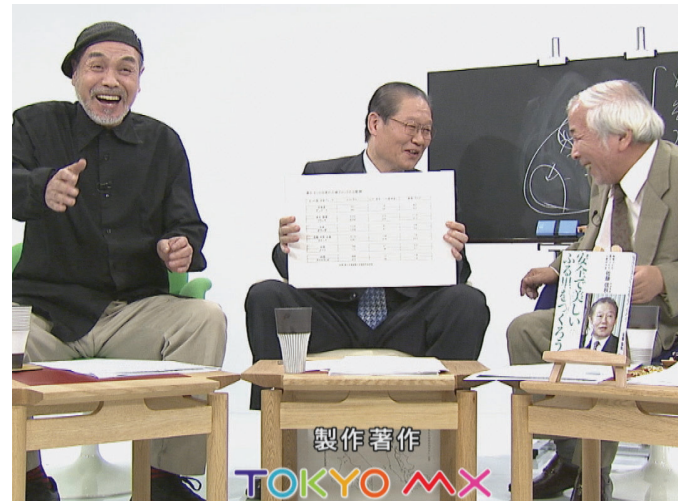
1) 公共事業悪玉論を排す

- ・「公共事業悪玉論」みたいなものが続いていて、考えが到底深い、とは言えない。
- ・ハツ場ダムの議論のされ方がものすごく気に入らない。例えば 廃止するのに住民たちへの補償費も含めて、これからどれだけかかるのか、これから日本の災害の危険はどうなるのか、等 将来の可能性とかということを一括抜きにしての議論の仕方が気に入らない。
- ・子供手当ありきで、公共事業の削減ありきで、最初にこれをやって、当り前のいろんな比較の結果、やるかやらないか、あるいは将来の見通しが一切ない。
- ・私は、ほとんど最初1人で「小泉改革は、必ずこの国をだめにする」と頑張ってきた。弱肉強食で例えば所得格差、地域格差ができた。公共事業悪玉論で、ソサエティが成り立つ土台をさらにぶっ壊すようにして、こっちから費用を捻出して ソーシャルセキュリティに回すというのは、考え方として本末転倒もいいところ。

2) 地域主権は地方切り捨てを促進する。三位一体とやらの地方分権主義が大失敗に終わったことを銘記すべき。

- ・いろんな地域が、ある程度独立を持ちながらも しっかりと関係性を持って、しかもこの関係をしっかりとつかさどる者としての中央政府が真ん中において、初めて全体の国家が成り立つ。地方分権、地域主権で 地方は勝手にやれ、では地域間格差が一層拡大する。





3) 「道州制」は国家解体をもたらすのではないか

- ・ 例えば、北海道は、道州制その他でどんどん地域間格差で減びていく。この問題は、北海道の500万道民が可哀そう、というだけじゃなくて、将来 食料増産の基地になるとか、教育機関を集中的にやったらどうかとか、そういう将来の発展性を考えると、僕らの子供とか孫達が何十年後かには 北海道に期待をかけて、ということがある。ある程度格差の広がらない、平等な国土にしなければならない。
- ・ 一種のナショナルミニマム、国家ならば、国民ならば、北海道と東京の間でも これ以上差が開いてはならない、という意味でのミニマム、それをやるのは地方政府の間の連関を保證するものとしての中央政府の役割で、それはマーケットの外の話。「構造改革なんていうものはくそ食らえ」と、僕1人で頑張っていた。

4) 公共事業の効果を増大させるには産業間（および省庁間）の横断的な協力が欠かせない—その協力体制の中枢をなすのが「国土建設」と「交通網」の国家的network

- ・ 北海道なんて例の入札制度（一般競争，編集部注）になってから、あらゆる産業がつぶれる。本当はやっていけない、ひどい安い金額でたった1社が入札する。その分のしわ寄せを零細の建設業者に押しつけるわけ。無残な風景が、構造改革の結果広がっている。
- ・ 今どき珍しい、公共事業の必要性を長年の経験を踏まえて言われている方で、ぜひ我々、陰ながらだけ応援することにいたしましょう。佐藤信秋先生、頑張ってください。

2 佐藤信秋のコラム

自由民主党機関紙「自由民主」2390号（平成21年10月27日号）

リレーコラム「せいりょう」欄より

中川昭一先生の突然のご不幸には、大変衝撃を受けられたことと思います。総選挙後に先生が中心となっていた水問題プロジェクト・チームが集まりました。世界の水問題に日本の最新技術などで貢献しようと作られたチーム「水・日本」の今後について、先生は熱い思いを語っておられました▼水問題に限らず先生は自ら考え、多様な意見を取りまとめて実践する、抜群の政策マン、国士であり、まさにステーツマンでした。早くから枢要ポストを重ねられたのも多くの人が納得いくところでした▼「まだやりたいことが、山のようにある」と意欲に満ちておられ、これからの日本と自民党の再生を背負うキーマンでした。今はただ、ご冥福を祈り、そのご遺志を生かすよう一同で決意するのみであります。合掌。（党新聞局次長）

3 トピックス



平成21年9月27日 新潟県旧山古志村「幸子田」にて稲刈り

お問合せ・編集部

「信秋タイムズ」は、参議院議員佐藤信秋の政治活動に共感していただける方にお送りしております。

毎号ご希望の方は、是非、編集部までご連絡ください。

E-mail : info@sato-nobuaki.jp

FAX : 03-5512-2503

さとう のぶ あき 佐藤信秋 プロフィール

昭和22年 新潟県に生まれる

昭和47年 京都大学大学院修士課程修了

昭和47年 建設省入省（現国土交通省）

平成17年 事務次官（平成18年7月退官）

平成19年 参議院議員選挙 初当選

国会事務所

〒100-8962

東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館503号

TEL 03-3508-8503 FAX 03-5512-2503

後援会事務所

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋1-4-2 九段ウィズビル2F

TEL 03-3262-6635 FAX 03-3262-1900

新潟事務所

〒951-8127

新潟県新潟市中央区関屋下川原町2-45

TEL 025-267-2455 FAX 025-267-2466